

# 「松永に学ぶ産業と文化」 令和2年度実施報告

共同利用センター 鶴崎 健一

本学では、地域に貢献できる人材を輩出するために、共通教育科目の教養教育科目群として「F 群（地域学）」を設置し、平成29年度から「松永に学ぶ産業と文化」という科目を実施している。4年目となる令和2年度の実施内容について報告する。

## 令和2年度の実施概要

本科目は、福山市経済環境局文化観光振興部 文化振興課に協力いただき、「松永はきもの資料館」（あしあとスクエア）を利用した科目で、学生自身で学修課題を考え、調査研究を行うことで地域社会のあり方を考える科目である（参考資料1）。

例年、4月中旬に受講の説明会を行い、学生が受講するかどうかを決定し、4月下旬に「松永はきもの資料館」の見学を行い、それをもとにして学修するテーマを考えるという手順を踏んでいた。しかしながら、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、授業開始が5月にずれ込んだ上に、5月中は対面授業を行うことができず受講説明会も開催できなかったため、例年と大きく異なる対応が必要となった（参考資料2）。また、例年は「松永はきもの資料館」見学を行うのだが、同期間、こちらも休館となっており、見学も叶わなかった。受講説明会の代わりに、受講希望者に対して Cerezo のコースニュースを通じて授業を受講するために必要な事項を掲載し、さらにコースコンテンツに「松永はきもの資料館」に関する手持ちの資料を掲載して受講するかどうかを検討してもらった。その結果、受講登録を行ったのは6名であった。例年よりは少し多い人数であったが、複数の教員で対応するほどの人数ではなかったため鶴崎だけで担当することにした。残念ながら、うち1名は前期終了後に受講を取りやめた。また、もう1名も公开发表会の直前に放棄してしまった。それぞれ受講を取りやめた理由は不明であるが、授業内容の改善および担当教員の技量の向上が必要かもしれない。

授業については、通常は個々の受講生と面談を行って進めていくのだが、5月中は対面での授業ができなかったため、Cerezo のアンケートを使って学生個人に調査研究を行うテーマを提出してもらい、そのテーマに沿ってプロジェクトに学修を進めるための個別のページを作成した。そこで2週間に1回程度、掲示板を利用し学生と情報交換を行い、授業を進めた。6月後半に一部対面授業が可能となったので、受講生と個別の面談曜日時間を決め、授業の遅れを取り戻すために週に1回を目安に面談を行うことにした。残念ながら、3回面談を行ったところで再度対面での授業が禁止されたため、以降、後期が始まる9月末までは Cerezo を使って情報交換を行った。9月の後期の初回には、夏休み期間中の調査も含めた中間報告をしてもらい、その内容をもとに今後の方針について検討し、公开发表会（12月19日）までに完成させる目標を立てた。公开发表会までの間、受講生の行った調査の内容のチェックのための面談を10月～11月中旬までは隔週で行った。11月中旬以降は、発表用のパワーポイントのスライドの作成、発表の練習などのため、面談のペースを週に1回に変更し、学生の進展具合によってはさらに頻度を高めて、発表の準備を行った。また、発表会については、例年「松永はきもの資料館」のロビーで実施していたが、同時に発表を行う「備後に学ぶ地域の課題」の受講生が多く、新型コロナウイルス感染防止が困難と判断し、福山駅北口の社会連携推進センターで行うこととした。公開で行うため、大学教育センターの日暮助手の協力で広報用のポスター（参考資料3）を作成し学内への掲示、および、福山市経済環境局文化観光振興部 文化振興課、「松永はきもの資料館」へも協力をお願いした。

発表会当日は、9時30分に社会連携推進センターに集合し、10時から参考資料3の順で一人12分程度ずつ学生による発表を行った。

発表会での質疑応答の結果を受け、2月1日を期限に受講生ごとに最終報告のレポートを作成した。

## 令和2年度の成果・発表について

「松永はきもの資料館」には、履物以外にも、全国の玩具や松永地域の伝統産業に関する機械などが展示されている。学生が最初に考えたテーマは、3名ははきものに関するもの、1名は郷土玩具に関するもの、1名は松永で毎年実施されてきた下駄リンピックに関するもの、そして、もう1名は畳表

に関するものであった。残念ながら、はきものに関するものうち1名と畳表をテーマにした学生は上述のように途中で受講を取りやめた。以下に最後まで履修を継続した4名の最終的なテーマと発表概要を以下に示す。

靴の役割の変化 ～ファッション性と機能性～ 大元竜野 (生物工学科2年)

靴には、足を保護するという重要な機能があり、用途によって多くの種類がある。また、時代とともに、足の保護機能だけでなくファッション性も変化してきている。そこで、ブーツ、サンダル、革靴、スニーカーについて、それらの歴史や機能とともにファッション性の変化について調べた。その結果、足の保護や歩きやすさなどの機能の向上に加えファッション性も高まってきていることが分かった。(写真1)

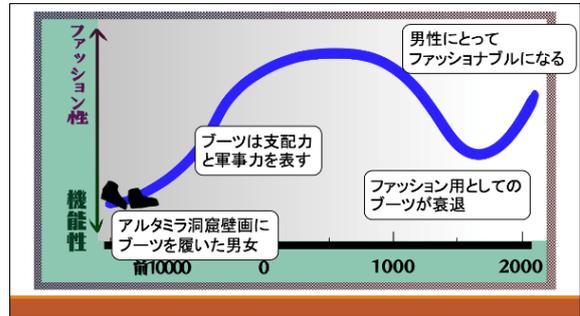


写真1 靴の役割の変化

競技用ランニングシューズの進化 ～ソールの厚さの変化～ 白根康平 (情報工学科4年)

マラソンなどで利用される競技用ランニングシューズの進化は競技記録に大きく影響する。そこで、ランニングシューズの歴史と機能の変化を調べた。2017年にNike社は、ソールにブレードを入れた厚底のシューズを発売し、それを履いた選手でマラソンなどの記録更新が相次いだ。それまでマラソンなどで利用されていたシューズは、衝撃を吸収しやすく軽量で薄いソールのものが良いと考えられていたが、このシューズによってそれまでの概念が覆された。(写真2)

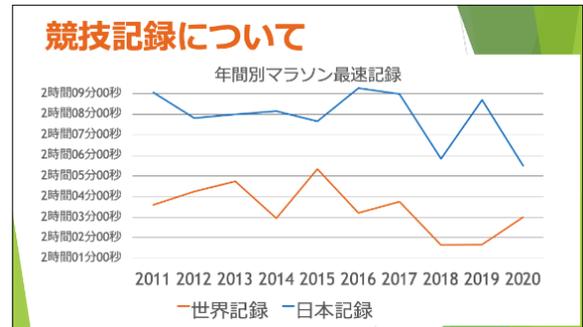


写真2 競技用ランニングシューズの進化

動く玩具 ～郷土玩具とからくり人形～ 井上歩 (機械システム工学科1年)

郷土玩具は江戸時代頃から続く伝統工芸品で、遊びに使われるだけでなく、縁起物、祭りで利用されるものなど、各地でその風土や文化を反映している。その中で、動くことを特徴とした玩具に着目し、からくり人形について調べた。からくり人形は、江戸時代にヨーロッパから持ち込まれた機械時計の调速装置の技術を、伝統芸能である人形芝居の人形に応用して生まれた。この仕組みは現在でも産業機械の一部に利用されていることもわかった。(写真3)

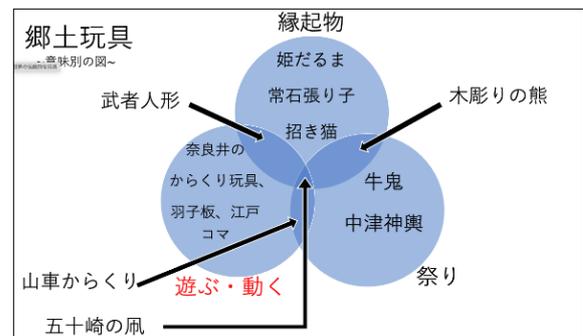


写真3 動く玩具

ゲタリンピックの歩みとこれから ～三原神明市との比較から～ 神原瑠璃 (人間文化学科1年)

ゲタリンピックは、松永がかつて下駄の一大産地であったことから、1994年に松永地区の地域活性化のために始まったイベントである。2005年を境に来場者数が伸び悩む状況にある。一方、近隣の三原で行われている三原神明市は、長い伝統を持ち1日あたりの来場者数もゲタリンピックの2倍以上である。イベント内容の比較から、ゲタリンピックでは、競技に参加しない人は下駄に触れ合う機会が少ないことが課題の一つと考えられる。下駄に触れ合う

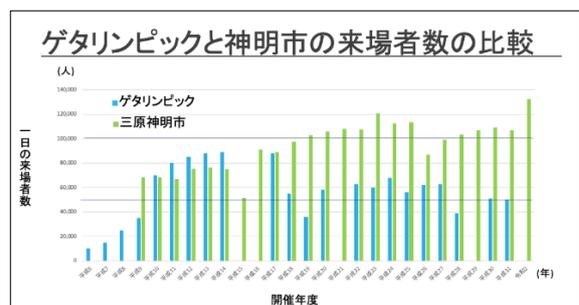


写真4 ゲタリンピックの歩みとこれから

ために、下駄の絵付け体験や下駄をモチーフにした小物を販売するなどの工夫が必要と思われる。(写真4)

発表会(写真5)には、鶴崎のほか、大学教育センター長の犬塚教授、中尾教授、津田講師、吉崎准教授、そして、福山市から企画政策課、環境保全課の方にも参加いただき、約10名に聴講いただいた。今回の発表会は、昨年に引き続き「備後に学ぶ地域の課題」の成果発表と同時に行った。各発表の後に質問時間を設けたが、学生同士、あるいは参加された皆さまから質問やコメントも積極的にいただき、少人数での発表ではあったが、活発な議論ができたと考えている。最後には、大学教育センターの中尾教授に講評をいただいた(写真6)。



写真5 「社会連携推進センター」での研究発表

### 今後の課題

過去3年と同様、今年度も受講生は少なく6名(最終的には4名)と少なく、教養科目としては寂しい結果となった。一方で、例年のように事前の情報提供や面談が行えず、受講希望者へのCerezoでの情報提供のみの対応であったのにも関わらず、例年よりは少し多く(例年3名程度)の受講生がおり、徐々にではあるが本科目が本学の履修科目として認知されてきたものと考えたい。上述のように途中で放棄した学生が3分の1に及んだ点は大きな反省点である。1名は前期終了、CerezoやZelkovaで連絡を取ろうとしたが返信はなく、放棄となってしまった。1名は10月中旬から連絡が途絶え気味になり、担任の先生にも協力をお願いしフォローしてきたが、発表会1週間前になって連絡が取れなくなり、放棄となってしまった。受講生の少なさ含め、学生自身に課題を考えてもらい学修を進めるという、通常の教養科目と異なる形態の授業であり、受講生にとってハードルが少し高いことが1つの要因と考えられるが、指導する教員の技量も当然大きく問われることは必至で、大きな反省を要する結果とも言える。学修を進めるための計画性や興味関心を高めるための誘導の方法について教員として勉強し直し次年度以降の改善に生かしたい。



写真6 中尾教授による講評

なお、受講を継続した受講生については、昨年同様、通常の面談日には体調不良などがない限りは全員出席し、各自しっかりと課題を持って調査を進めていた。また、受講生自身で発表会に向けて準備を進め、しっかりとした発表を行った。なお、公開発表会の際にも指摘されたが、研究として考えると、根拠資料の不足や参考資料の適切な引用などについて不十分であると公開発表会の際に指摘されたが、通年科目とはいえ実質的には8ヶ月程度の期間であり、また、受講生は調査研究についてはまだ経験の浅い1、2年生が多いということで指導が不十分になったことは否めない。この授業は大学における研究の方法を修得することも一つの目的であるが、特に1、2年生については、技術的な面よりも学問に対する興味を持ち地域の産業や文化についての教養を高めることを重視した指導を行ったため、資料の使い方への配慮が不足した面もある。次年度以降は、調査研究の方法論の指導についても改善を考えたい。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、「松永はきもの資料館」を活用した指導がほぼできない状況ではあったが、福山市経済環境局文化観光振興部 文化振興課の協力と「松永はきもの資料館」(あしあとスクエア) 事務長の岡本浩男氏のご協力が無事に授業を展開することができた。令和3年度も上記のような課題を改善しながら、より充実した授業内容を目指し、学生の地域貢献の意識を高める一助となるようにしたい。

(参考資料1) シラバスの概要

講義名	松永に学ぶ産業と文化		
開講期・曜日・時限	通年・集中講義扱い	単位数	2単位
授業のねらい、概要	松永の「松永はきもの資料館」(あしあとスクエア)には、世界中のはきものを始め、地域の伝統産業に関わるものや文化に関するものが展示されています。この資料館を見学することで、産業の栄枯盛衰、文化の継承など、様々な観点から地域について学ぶことができます。そこで、この資料館の見学を通じて、学習者自身の観点で地域の産業や文化について考えてもらいます。		
授業(学習)の到達目標	地域の産業や文化について <u>自身で課題を考え、調査研究すること</u> で、地域社会のあり方を考えることができることを目指します。また、その成果をもとに、地域を育み、地域に貢献する精神を身に付けることを目指します。また、学修を通じて、コミュニケーション能力を身に付けることも目指します。		

(参考資料2) 授業日程と実施内容

日程	内容	実施概要
5月上旬～下旬	受講説明・登録 担当教員の決定	履修登録までの間、Cerezoで受講についての説明、受講登録 受講人数で担当教員を決定(今年度は6名の受講のため鶴崎のみ)
5月下旬～6月	テーマの決定 調査研究の準備	担当教員とCerezoを通じて相談の上、決定 資料集めの方法など、調査研究の方法について担当教員と検討
6月～9月	調査研究	テーマに沿って、「松永はきもの資料館」などの見学、資料の閲覧、現地調査などを行い、各自で学修を進める 6月～7月: 担当教員に定期的な報告を行い、調査について指導を受ける 8月～9月(夏休み期間中): 各自で調査研究を進める
9月下旬	中間報告 調査研究内容の再検討	この時点までの調査研究内容をまとめ、担当教員に中間報告する 担当教員と相談しながら、残りの期間で調査研究する内容についての目標を定める
10月	調査研究	再検討の結果を受け、各自で学修を進める 定められた面談日程に従って、担当教員に定期的な報告を行い、調査内容について指導を受ける
11月～12月中旬	スライドの作成	調査研究の結果から、プレゼンテーション用のパワーポイントスライドを作成する

		定められた面談日に担当教員に定期的な報告を行い、調査内容について指導を受ける
12月19日	プレゼンテーション	社会連携推進センターにて、パワーポイントによる発表を行う一般にも公開し、意見を仰ぐ
12月下旬 ～1月末	レポートの作成	プレゼンテーション時の質疑を反映させて、必要なら追加の調査を行い、レポートを作成
2月1日 (締め切り)	レポートの提出	完成したレポートを担当教員に提出

# 「松永に学ぶ産業と文化」 「備後に学ぶ地域の課題」 成果発表会

共通教育科目（教養科目 F 群 地域学）「松永に学ぶ産業と文化」と「備後に学ぶ地域の課題」の受講生による成果発表を行います。

是非、聴講にお越しく下さい。

場 所： 社会連携推進センター 902、903 教室

日 時： 令和2年12月19日（土）10:00～



## タイムテーブル

10:00 開会あいさつ

10:05 成果発表「松永に学ぶ産業と文化」

- ゲタリソックスの歩みとその将来性 ～神明市との比較から～  
神原瑠璃（人間文化学科1年）
- 競技用ランニングシューズの進化 ～薄底から厚底へ～  
白根康平（情報工学科4年）
- 動く玩具 ～郷土玩具とからくり人形から考える～  
井上歩（機械システム工学科1年）
- 靴の役割の変化 ～ファッション性に焦点を当てて～  
大元竜野（生物工学科2年）
- 靴に関する風習と地域による靴の扱いの違い  
川又悠生（生物工学科2年）

11:10 成果発表「備後に学ぶ地域の課題」（芦田川イメージアップの企画）

- 河川敷の整備 アシダ川特戦隊チーム
- 芦田川教育 教育班チーム
- ポストカードで商品 gets ALL STAR チーム
- 芦田川ライブイベント Unser Licht KANFA チーム
- 芦田川の魅力を SNS で発信する SNS チーム
- みんなで学ぼう！芦田川について！ インドカレー店（バイトリーダー）チーム

12:15 講評

12:25 閉会あいさつ

※ 発表題目、順番等の変更の可能性があります

※ 聴講を希望される際は、感染防止対策の観点から、事前に担当者にご連絡ください。

（共同利用センター 鶴崎 e-mail: k-tsuru@fukuyama-u.ac.jp）

※ 会場ではマスクの着用をお願いいたします。



（参考資料 3） 「社会連携推進センター」での発表会用ポスター